

市議会 だより

令和2年 臨時会(5/8) 報告
6月定例会

鶴ヶ島市議会



市議会だよりは

しっかりと読んでるよ

投票した責任があるからな



脚折雨乞行事保存会
の皆様インタビュー

目次

市の考えを問う 一般質問	2
臨時会(5/8)報告	10
6月定例会報告	11
委員会審査(条例等)	12
委員会審査(補正予算)	12
新型コロナウイルス感染症に対する 議会の対応	13
市民・団体インタビュー	14

※ 本年の脚折雨乞は
残念ながら開催見送りとなりました

Q

コロナ第2波への備えと複合災害対応

うちの 内野 よしひろ 嘉広 議員



A

今後、地域団体と連携体制を 図っていく

市の考えを問う 一般質問

6月15日・16日・17日の3日間行われた一般質問の主な質問(Q)と答弁(A)の概要を掲載します。



昨年度の避難所開設・運営訓練

問 複合災害における分散避難などの新しい防災体制での地域防災部との連携について。

答 避難所は、各地域の自治会館、集会所等も利用していきたい。地域防災部とは、避難所の運営マニュアルの改訂後、運営を実情に即したものとするためにも、連携を図っていく。

問 自主避難の場合は避難者が必需品を持参し、避難勧告の場合は防災備品が提供される。緊急時に現実離れしているのでは。

答 日頃から備蓄品を家に置き、避難時に持ち寄ってもらうことが基本であると考えている。今後とも周知を図り、各家庭での備蓄をお願いしていく。しかし、持って来られない方がいることも想定されるため、備蓄品の準備をしたいと考えている。

問 冠水が予想される地区への事前の土のう等の配置について。

答 これまでは土のうの事前配布はしていなかったが、近年の気象状況等を考慮し、事前配布を行っていきたく考えている。

問 避難所でのソーシャルディスタンス、空間の確保について。

答 1人当たりの専有スペースを3平方メートルとし、家族単位で確保する。隣の家族との間には2メートルの距離を離すことで、空間の確保を図ることを考えている。



問 市民への情報提供について。

答 広報紙やホームページ等を活用し、分かりやすく提供した。

問 医療機関との連携は。

答 新型コロナウイルス感染症対策医療有識者会議の設置等により、情報共有と連携を図った。

問 事業者への支援は。

答 対策を講じた事業者の情報発信や市独自の給付金と融資制度など、各種支援をしている。

問 高齢者や子どもたち、主婦等の健康と心のケアについて。

答 心の健康情報の掲載や体操動画の配信等の情報提供の充実に加え、必要な相談支援を行う。

問 自然災害等における避難所対策は。

答 県の指針を参考にして、健康管理や安全確保などに努める。

問 長期化を見据えた今後の対応策は。

答 市独自策として、ひとり親家庭への現金給付や事業者向けの融資制度の創設などを実施した。市民生活を守ることが基本であり、感染拡大防止を徹底し、学校教育、高齢者、事業者など全ての市民に支援が行き届くよう進める。歳入不足に伴う財政見直しを進め、コロナ禍に負けない取組を実施していく。

◎**その他の質問** 女性センターの機能と役割について

A

市民生活を守ることが基本

Q

新型コロナウイルスによる影響への対策について

かないずみふさこ
金泉婦貴子 議員



Q コロナ後の市民生活をどう築く

おおた ただよし
太田 忠芳 議員



A 困窮する人々に対する支援の充実・強化を図る

問 新型コロナウイルス感染症により明らかとなった、子どもや女性などの市民生活の貧困と格差について、現時点での問題点と対策、今後の施策について。

答 公共施設の休館により、子どもの貧困対策としての子ども食堂なども休止となり、栄養バランスの偏りなどが懸念される。そのため本市では、県内の民間団体と連携して支援の必要な家庭に食料を届けた。今後も、子ども食堂や生活に困っている人々に食料を無料で配布するフードパントリーへの支援を充実していきたいと考えている。

総務省が毎月行う労働力調査の昨年4月の結果によると、正規従業員は約4割を占め、そのうちの約7割が女性であり、年齢が高くなるにつれて割合も高くなっている。また、本年4



月の結果では、前年同月比で35歳から44歳の女性が28万人の減となっており、女性を取り巻く雇用情勢の悪化が懸念される。

本市では、市役所各部署の窓口等において生活に困った方を把握した場合には、自立相談支援につなげるよう取り組み、本年4月からは、生活サポートセンターにアウトリーチ支援員を配置して、支援体制の強化を図った。

Q 次期、整備予定の都市計画道路について

すぎた やすゆき
杉田 恭之 議員



A 将来の鶴ヶ島を見通し、優先順位が高い路線から行う

問 本市の道路ネットワークの考え方は。

答 都市における諸活動の活性化を促進するために、都市間や市内の市街地を結び、周辺都市との連携強化や土地利用促進、都市防災の向上に資する幹線道路網の形成に努めている。

問 決定に至った理由は。

答 未整備路線の現状や課題を整理し、評価を踏まえた整備の優先順位を決定するに至った。

問 最も重要な決定要因は。

答 対象路線の整備効果に対する重要性及び整備の早期実現性の大きく二つの視点から設定した評価指標により、採点した合計点数の高い順に優先順位を決めた。

問 今後の整備計画は。

答 優先順位が高い路線について、事業着手に向けた準備を進める。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大による市の財政への影響を踏まえ、事業の時期や規模を十分に検討する必要がある。

問 共栄鶴ヶ丘線、日高川越鶴ヶ島線及び鶴ヶ島日高線以外の他の路線の整備計画について。

答 整備主体が埼玉県のものなど、本市のみでは判断をしやすい路線は、関係する主体と必要に応じた調整を図っていく。



都市計画道路 鶴ヶ島日高線予定地



鶴ヶ島市海洋センター



スポーツ施設の整備について

おがわ 小川 しげる 茂 議員



利用者の安全性を確保することを前提に、必要な修繕に努める

問 海洋センターの体育館、芝生広場の利用は。

答 令和元年度の体育館の利用状況は、3月2日から臨時休館した影響はあるが、4万647人、稼働率78・5割である。芝生広場等屋外の利用団体は7団体、稼働率45・1割である。

問 トイレの現状について。

答 洋式化の要望は多いが、今後故障や修理が必要な場合には、洋式化についても検討する。

問 体育館照明（LED）は。

答 現在は水銀灯だが、2020年で生産終了となるため、代替品への転用の可否などを検討している。検討の中でLED照明の耐用年数や費用等を考慮し、調査する。

問 業務委託者（体育協会）と

の連絡調整について。

答 体育協会は、窓口業務の仕様上、施設使用料の納入や事務連絡を生涯学習スポーツ課と週3回以上行っている。また、施設の使用や管理上の疑義が生じたときは、市の職員が現場での確認や調整を図るなどしている。

問 今後の計画的修繕について。

答 施設の大規模修繕は行わず、毎日の点検において異常箇所を確認した際には、その都度安全を第一に考えて、速やかに修繕を行っている。



学習用端末の年度内整備を目指す



GIGAスクール構想の実現について

やまなか 山中 もとみつ 基充 議員



が GIGAスクール構想・・・1人1台の学習用端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、教育ICT環境を実現する構想のこと。

新型コロナウイルス禍で戸田市は、学校のパソコン等を貸し出し、全ての小・中学校でオンライン学習を実施した。

問 小・中学校のLAN整備、統合型校務支援システムの導入状況は。

答 LAN整備は、11月に整備が完了する予定である。統合型

新型コロナ禍で戸田市は、学校のパソコン等を貸し出し、全ての小・中学校でオンライン学習を実施した。

問 小・中学校のLAN整備、統合型校務支援システムの導入状況は。

答 LAN整備は、11月に整備が完了する予定である。統合型

問 前倒しされたGIGAスクール構想への取組について。

答 1人1台の学習用端末の年度内整備を目指し、早期予算化に向けて調整中である。

問 休校中の児童・生徒の学習状況とオンライン学習の取組は。

答 各学校で工夫を凝らし学習機会を提供した。約2割の家庭がネット環境に課題があり、今後機器の貸出しを検討していく。

- ◎その他の質問
- 一 令和4年からの成人式は
 - 二 レインボーフラッグ掲示を
 - 三 個別施設設計画策定はなぜ令和3年度なのか

Q 除染土壌を公共工事に使わないで

おのの 大野 洋子 議員



A 公共工事における再生資源化 除去土壌の利用は考えていない

問 環境省は除染土壌の再生利用を進めるため、法改正をする予定だったが、パブリックコメントに危険性を危惧する2854件の意見が寄せられたことから改正を見送った。しかし、引き続き改正の検討を行うとしており、再利用への不安は消えていない。

降雨、浸食、災害などによる放射性物質の環境中への大量放出も考えられ、大地震による道路の陥没や崩壊があれば、除染土がむき出しになることも懸念される。公共事業や農地造成に利用すべきではないと考えるが、市の見解は。

答 環境省が示す基本的考え方では、再生資材化した除去土壌の利用を公共事業等における盛土材等の構造基盤の部材に限定し、法令の基準に従って適切な



福島県内の除染土の集積場所

管理の下で限定的に利用することとしている。市が現在計画している工事では、盛土を必要とする工事はなく、公共工事における再生資源化した除去土壌の利用は考えていない。

国の実証事業が進行中であるため、現段階では除去土壌の安全性は判断できないと考えている。

◎その他の質問 新しい公共としての図書館の在り方

Q これからの時代に必要な学力とは

もちだ やすあき 持田 靖明 議員



A 困難を乗り越えていく生きる力の育成をしてほしい

問 本市の子どもたちの学力の現状について。

答 小・中学校の国語科、算数・数学科で、全国平均同等のレベルまで伸びてきた。少しでも「できた」や「分かった」という充実感を持てるように、今後さらに努力していきたい。

問 これまでの学力向上に向けた取組と成果について。

答 学習支援員の配置、放課後のびのび算数教室や土曜学習会、学び合い学習等を推進してきた。埼玉県学力・学習状況調査では、学年が上がるほど学力の伸びが県の平均を上回ってきており、特に上位層及び下位層に安定した伸びが見られる。

問 これからの時代を生き抜く子どもたちに求められる学力について。

答 自ら課題を見つけて、自ら考えて、自ら学んで、そして自ら判断して自らの責任を持って行動するという「生きる力」を育成してほしいと考えている。

問 教育系ICT環境整備の現状について。

答 高速通信ネットワーク環境の整備は、本年11月中の終了を予定している。児童・生徒への1人1台の学習用端末の年度内整備を目指し、早期予算化に向けて調整を進めている。





鶴ヶ島市立西中学校

Q

今後の学校教育の在り方について

こばやし
小林ひとみ 議員



A

オンライン学習の実現に向けて検討を進めていく

問 今後、オンライン学習にどのように取り組んでいくのか。

答 オンライン学習は、臨時休業期間中でも児童・生徒の学びを継続させる方法として有効であると考えている。今後、各学校で教員のスキルアップや、ガイドラインの構築等の課題の解決を図りながら、実現に向けて検討を進めていく。

問 授業時間の確保は。

答 家庭訪問などの行事の見直しや中止等により、年間指導計画の再検討を行った。また、夏季休業日の短縮や、学級、学年閉鎖を見越して確保している余剰授業時間により、今年度は対応していけるものと考えている。

問 児童・生徒の健康管理は。

答 保護者に、登校前の検温や

健康観察の実施などをお願いしている。また、体調不良を訴えた場合には、別の部屋で保護者の迎えを待つこととしている。

問 いじめや不登校などの相談体制は整っているか。

答 指導主事やいじめ等対応支援員による学校訪問を実施し、いじめの早期発見や不登校の未然防止のための指導、助言を行うっていく。

◎その他の質問 高齢者の健康維持について

A

環境に優しい農業を進め、地産地消や付加価値の向上を図る

Q

安全・安心、安定した食料確保のために

いしづか
石塚 節子 議員



問 鶴ヶ島市の耕作放棄地の実態と農家戸数減少の要因は。

答 平成27年度実施の農林業センサスによると、耕作放棄地は151軒である。農家戸数の減少は、農業従事者の高齢化と担い手不足が要因である。

問 担い手を確保し、鶴ヶ島市の農業を発展させる方策は。

答 新規就農支援事業を展開し、農業に携わる方の確保に努めた。今後も農業に携わる市民や企業の声聞き、寄り添い、共に考えながら鶴ヶ島の農業を守っていくと考えている。

問 特別栽培、有機栽培の促進、支援は。

答 現在、特別栽培農産物に認



太田ヶ谷のトウモロコシ畑

定されているお茶及びトマト以外にも、ゴボウやネギ、里芋の栽培を農家に働きかけて認定を目指す。また、有機野菜は環境に優しい農業の普及を推進し、地産地消や農産物の付加価値の向上を図っていく。

問 地場農産物の給食への供給は。

答 決まった量を決まった時期に安定的に納入する必要があるため、現在の使用率は約10%だが、10年後には20%まで引き上げられる体制を目指す。

◎その他の質問 地球温暖化に歯止めを

Q 受動喫煙防止対策について

まつお 松尾 孝彦 議員



A 市民及び事業所への周知に努める

問 受動喫煙対策の現状と課題について。

している。

答 市役所を除く第一種施設に該当する全ての公共施設の敷地内を禁煙とし、市役所には受動喫煙を防止するための喫煙所を設置し、対応している。第二種施設は、原則屋内禁煙だが、若葉駅前出張所、学校給食センター及び運動公園以外の公共施設は、規制を上回る敷地内禁煙と

また、第2次鶴ヶ島市健康づくり計画・食育推進計画の健康分野の一つにたばこを位置づけ、禁煙や受動喫煙防止に向けた取組を推進している。具体的な取組として、リーフレットの配布、広報紙やホームページで、健康被害をはじめ、禁煙や喫煙ルールの周知、啓発などを行っている。



市役所敷地内の喫煙室

問 改正健康増進法の全面施行後の取組について。

答 受動喫煙防止対策に関する情報を広報紙やホームページに掲載するとともに、リーフレットの配布などにより、市民及び事業所への周知に努めていく。

◎その他の質問

一 単身高齢者のゴミ出し支援について

二 道路標識の改正について

Q 齊藤市長の経営ビジョンについて

はせがわ きよし 長谷川 清 議員



A 大きなまちの構造転換を図る

問 自治体経営が最も厳しくなると言われている2040年まであと20年。この危機に対する齊藤市長の具体的な経営ビジョンは。

答 私が目指すまちづくりは、大きなまちの構造転換を図ることである。この度作成した第6次総合計画の中で示した3つの重点戦略は、この転換を図るための礎となるものである。

問 齊藤市長が就任されて2年数か月がたった。この間に市長が述べられてきたことは、鶴ヶ島市政の経営ビジョンではなく、市長としての心構えのようなものである。お話の第6次総合計画からも市長の経営ビジョンは



市役所庁舎

見えてこないが。

答 私の最重要課題は、鶴ヶ島の市政を安定させることである。そのために、行政の様々な課題を一つにし、行政のサイクルとして全てを同時に運営しているかと考えている。何一つ取り残してはいけないという考えの中で、本市の行政サイクルを早く大きく回転させていくことが、安定した市政運営に重要なことである。これが私の考えの基本である。

このことを市長就任当初から話し続けてきた。少しでも御理解いただければありがたい。



学校再開後の授業風景

Q

学校再開後の小・中学校の運営について

たかはし けんじ
高橋 剣二 議員



A

国や県のガイドラインを参考に慎重に進めていく

- 問** 休校期間中の学習・生活状況の把握について。
- 答** 電子メール、電話、家庭訪問、課題提出のための登校時に確認した。
- 問** 休校期間中の保護者からの意見は。
- 答** 卒業式や入学式、学校開放、再開後の対応についてなど、82件の意見が寄せられた。
- 問** 学校再開後に対応が必要なものについて。
- 答** 新型コロナウイルス感染症対策のほか、特に学習面のフォローと心のケアが必要である。
- 問** 学習指導要領の消化の見込みについて。
- 答** 夏季休業日の短縮や余剰授業時間を活用することで、消化できる見込みである。

- 問** 運動会、文化祭、修学旅行等の行事の予定について。
- 答** 実施の有無や方法について、国及び県からのガイドラインを参考に慎重に検討を進めていく。
- 問** オンライン授業の導入について。
- 答** 導入に向けた課題解決の方法も含めて検討を進めていく。
- 問** 第2波への対応について。
- 答** 学びの保障や心のケア等について事前に準備をしておき、速やかに、かつ十分な対応ができるようにしていく。

Q

新型コロナウイルスに関する市の対応と今後

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



A

正しく恐れることを発信する

- 問** 感染者が市内で発生したときの対応は。
- 答** 寄せられた不安に対して健康相談を行い、必要に応じて県のサポートセンターを紹介した。今後も健康相談に対応し、速やかに正確な情報を発信していく。
- 問** 6月17日現在、新型コロナウイルスの死者数は約930人。一方、
- 国のいわゆる新型コロナウイルス基本的対処方針等によると、季節性インフルエンザの超過死亡は年間で約1万人。また、新型コロナウイルスの致死率はインフルエンザより相当程度高いとされている。これらを市民に示し、3密回避などの感染症対策を粛々と行うよう周知すべきでは。

- 答** 惑わされないように、正確な情報に触れて正しく恐れるということを発信していく。
- 問** 市民の生活支援に関する取組にスピード感がないが。
- 答** できることについては素早く行った。一方、調整を必要とする支援策もあり、そちらについてはある程度の時間を要した。
- 問** 非常時である。児童・生徒個人や家族のパソコン等を活用し、オンラインによる学びの保障を早期に進めていくべきでは。
- 答** 国のGIGAスクール構想の推進や学校にあるパソコンの活用を検討している。



市が発行した配布物

Q 指定管理者制度について

ふじわら
藤原 けんし
建志 議員



A 民間のノウハウを活用し、市民サービス向上と経費節減を図る

問 指定管理者施設のモニタリング制度の活用は。

答 年度終了時に提出される事業報告書及び年度中に実施しているモニタリングの結果を踏まえ、総合評価を実施している。

利用者へのアンケート調査やモニタリング総合評価の結果等を指定管理者に適切にフィードバックして、市民サービスの向上につなげている。

社会情勢の変化を踏まえ、今後の施設運営の在り方についても検討することが課題であると考えている。

問 大橋児童館の指定管理が替わったが、その影響は。

答 イベントなどの実施時期や内容等はおおむね継承されるため、大きな影響はない。今後、魅力的な児童館運営が図られていくと考えている。



鶴ヶ島市中央図書館

問 図書館の今後の方向性は。

答 図書館サービスの充実に努め、誰にも身近な図書館として親しまれていくよう、鶴ヶ島市立図書館基本構想を改正し、方向性を示していく。

問 農業交流センターの今後の方向性は。

答 グリーンツーリズム等を地域との協働で展開し、地域貢献及び市民ファーストを前提とした施設運営を進める。

Q まちづくりと安全対策について

おおそねひであき
大曾根英明 議員



A 官民一体となって安心安全なまちづくりを進める

問 生活圏の安全対策について。

答 西入間警察署等の関係機関と連携し、地域住民との協力関係を深めながら、官民が一体となって安心安全なまちづくりを進めていく。

問 防災・減災について。

答 市民による自助、地域による共助、鶴ヶ島市地域防災計画に基づく公的機関による公助が相互に連携することが重要である。今後起こり得る大地震や風水害に備え、自助、共助、公助を相互に連携させて防災力を高め、より災害に強い鶴ヶ島市となるよう努めていく。

問 公共施設の安全対策について。



鶴ヶ島駅西口

答 老朽化等によって生じる事故を未然に防ぐことや施設で発生した不具合等に対して効率的かつ確実に対応していくことにより、公共施設の安全を確保し、安全対策に取り組んでいく。

問 鶴ヶ島駅周辺地区拠点整備構想策定事業について。

答 株式会社関水金属の新工場立地を好機とした、新たな魅力の創出や地域経済の活性化等を目的とし、道路や歩道の面整備による周辺の交通安全強化も図る事業である。新型コロナウイルスの影響を受け、適切な実施時期や規模等を検討する必要がある。

委員会審査

条例等

議案第44号
鶴ヶ島市税条例等の一部を改正する条例について

地方税法の一部改正に伴い、個人の市民税における「ひとり親控除」の創設に伴う規定の整備、固定資産税における固定資産の使用者を所有者とみなすことができる規定の追加、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に伴う規定の追加等をするものです。

Q 新型コロナウイルス感染症対策の徴収猶予特例に係る納税の相談件数と特例期間を超えた場合の対応は。

A 収納課長 5月末現在で相談が20件、申請が13件あった。特例期間を超える場合には、既存の猶予制度等を紹介する。

議案第45号
鶴ヶ島市都市計画税条例の一部を改正する条例について

地方税法の一部改正に伴い、浸水被害軽減地区の指定を受けた土地に課する都市計画税について、地域決定型地方税制特例措置に基づき課税標準の特例とする割合を定める規定の追加、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に伴う規定の整備等を

するものです。

議案第48号
鶴ヶ島市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について

放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、放課後児童支援員の資格要件に関する規定を改正するものです。

Q 放課後児童支援員の資格要件緩和の今後の動向は。

A ことも支援課長 国の動向に合わせていくこととなるが、支援員の確保が非常に重要であると考えている。



議案第49号
鶴ヶ島市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に伴い、国民健康保険税の減免の規定及び地方税法の一部改正による低未利用土地等を譲渡した場合の長期譲渡所得等に係る課税の特例の規定の整備をするものです。

Q 低未利用地とは。

A 保険年金課長 ニーズが低い土地のことで、譲渡額が

建物等を含めて500万円以下、所有権が5年を超えることが要件となる。

議案第52号
公の施設の指定管理者の指定について

鶴ヶ島市立図書館の指定管理者の指定をするものです。

Q 指定管理者の指定にあたっての利用者の声の反映は。

A 生涯学習スポーツ課長 毎年実施している利用者アンケートの結果を参考にしている。

Q 評価している市の文化・教育の発展に資する姿勢とは。

A 生涯学習スポーツ課長 現在行っている業務の継続と発展について提案があり、その姿勢が評価された。



令和2年度的一般会計補正予算(第3号)及び(第4号)が可決されました。

一般会計(第3号)

南市民センター運営事業

Q 排煙機の使用年数は。

A 地域活動推進課長 耐用年数は20年だが、点検等を行い35年ほど使用している。その間に大規模な更新はしていない。



鶴ヶ島市南市民センター

道路長寿命化推進事業

Q 3路線を選んだ理由は。

A 道路建設課長 鶴ヶ島市道路舗装修繕計画に基づき、舗装面の損傷度、路線に対する通学路の利用度、車両の交通量、修繕の履歴及び頻度を数値化し、総合的に判断することで優先順位を決めている。

一般会計(第4号)

地域事業者クーポン応援事業

Q 金券でもあるクーポンの小さな中学生への配布方法が郵

送でないのは、学校を経由して本人に手渡すことで、より使用してもらえらるためとの事前説明があったが、その根拠は。

A 産業振興課長 学校で配布することで児童・生徒にしっかりと周知することができる。また、配布方法に不安がある家庭への対応も検討している。

Q 高校生の希望者への配布を全員への配布にする考えは。

A 産業振興課長 対象を明確に把握するのが難しいため、希望制とした。今後、積極的に周知を行う。



災害対策事業

Q 購入する備蓄品等の具体的な内容は。

A 安心安全推進課長 マスクや防護服等の感染症対策に有効な消耗品のほか、ポータブル蓄電池等を購入する。

Q 避難所の3密対策は。

A 安心安全推進課長 安全が確保できていることを条件



Q 採用する大学生の基準は。
 A 学校教育課長 子どもに寄り添うことができ、しっかりとコミュニケーションが取れるなどの人間性を見ていく。

W I N - W I N 事業
 中学校 鶴つ子土曜塾×大学生

W I N - W I N 事業
 小学校 鶴つ子土曜塾×大学生



に、在宅避難や親戚・知人宅への避難を呼びかける。避難所では、受入れ時の検温、十分な換気やソーシャルディスタンスの確保等の感染対策を徹底する。

次回定例会のお知らせ

今回の令和2年第3回定例会は、8月26日(水)に開会の予定です。

議会の日程は、開会日の5～2日前に決定し、市のホームページのほか、市役所1階などの議会情報コーナーで御案内します。

ホームページはこちらから

<https://www.city.tsurugashima.lg.jp/page/dir000016.html>



鶴ヶ島市議会

検索

地域事業者クーポン応援事業の実施方法が変更になりました

委員会等において、議会から執行部に対して確認及び提案を行い、次のとおり実施方法が変更となりました。

- 小・中学生
 児童・生徒へのクーポン券の手渡し → 手渡し若しくは保護者が市民センター等で受取
- 高校生相当
 希望する高校生 → 対象となる年齢の方全員に通知による周知

～ 新型コロナウイルス感染症に対する議会の対応 ～

危機管理対策支援本部を設置しました！

これまでも地震等の発災時には、要領に基づいて災害対策支援本部を設置し、議会として市の支援を行ってきました。

この度、新型コロナウイルス感染症への適切な対策を推進するために設置された、市の危機管理対策本部を議会として支援するため、危機管理対策支援本部を新たに設置しました。

また、支援本部において各議員からの執行部への質問事項を取りまとめ、対応方法等について確認を行いました。

○主な質問事項

- ・学校給食を提供する際の対応について
- ・突然に収入の道を断たれる非正規労働者やフリーランスへの対応について

鶴ヶ島市議会会議規則を改正しました！

これまでの会議規則では、新型コロナウイルス感染症患者の発生による施設閉鎖や大規模災害による施設の損傷などにより議事堂が使用できない場合、議会を開くことができませんでした。

この度の改正により、議長が別に指定する場所に参集し、議会を開くことが可能になりました。

(参集)

第1条 議員は、招集の当日開議定刻前に議事堂に参集し、その旨を議長に通告しなければならない。ただし、議事堂が使用できない場合は、議長が別に指定する場所に参集する。

※改正により下線部が加わりました。

※そのほか、会派や各議員においても活動を行っています。

脚折雨乞行事
保存会



市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

江戸時代を起源とし、現在では国選択無形民俗文化財に選択されている脚折雨乞。一度は途切れてしまった伝統行事を復活させ、後世に継承している脚折雨乞行事保存会の皆様にインタビューを行いました。



脚折雨乞は、長さ36尺、重さ約3トもある「龍蛇」を作って雨乞いをするのが特徴です。龍蛇は入魂の儀により「龍神」となり、白鬚神社から雷電池までの約2キロを300人の男たちが担いで練り歩きます。雷電池に到着すると、龍神を池に入れ、雨乞いを行います。そして、行事の最後には池の中で龍神が解体（龍神昇天）されます。



● 途絶えた伝統

江戸時代を起源とし、日照りで困った際に行ってきた雨乞いしかし、行事の担い手である専業農家の減少など、社会環境の変化の影響で前回の東京オリンピックが開催された昭和39年に行ったのを最後に、一度は途絶えてしまいました。

● 復活にかけた思い

都市化に伴い人口が急増し、新旧の住民が一つになれることはないかとの声が挙がり、昭和50年に脚折雨乞行事保存会を結成し、翌年に行事を復活させました。

再開の一番の目的は、雨乞いではなく、人々の絆や地域の絆を育むことでした。我々もその想いを次の世代に引き継いでいきたいと考えています。

● 議会への関心

市議会だよりは、しっかりと読んでいます。市の方向性や現状がよく分かるし、選挙で投票した議員もいるので、議員の質問内容も確認しています。

鶴ヶ島市は平和で困りごとも少ないから、多くの人が議会に関心が薄いのだと思います。



● 世代交代が課題

進学や就職に伴い、東京都内などに出て行ってしまおうので、40代や50代の参加者が少なく、担い手の世代交代ができていないことが現在の課題です。

● 行事にかける思い

国選択無形民俗文化財に選択された行事に自分が携われることが誇りです。また、郷土愛を持って活動をしています。

隣人同士でも関係が希薄になっている時代ですが、行事に携わることで新旧の住民に関係なく付き合いができて、地域を一つにしています。脚折雨乞の持つ役割は大きいです。

脚折雨乞は本年9月13日に開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、開催を見送りました。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集
後記

お気づきでしょうか。「市議会だより」は毎号新しく生まれ変わっています。第191号（令和2年2月1日発行）から記事の順番を入れ替えました。第192号からは表紙及び裏表紙をカラー化し、様々な活動をする市民や団体が登場し、その活動等を語っていただくシリーズを始めました。また、当初予算を特集し、全議員の「予算の注目点」を掲載しました。

本号はいかがだったでしょうか。議会報編集委員一同は、「市議会だより」の成長に、知恵を出しあいます。（太）

（議会報編集委員）

- 委員長 大野 洋子
- 副委員長 出雲 敏太郎
- 委員 山中 基充
- 委員 小林 ひとみ
- 委員 太田 忠芳
- 委員 石塚 節子
- 委員 内野 嘉広
- 委員 持田 靖明